（様式3）　　平成　23　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1292200027		
法人名	医療法人社団千葉医心会		
事業所名	グループホーム増尾		
所在地	千葉県柏市増尾749		
自己評価作成日	平成23年10月17日	評価結果市町村受理日	平成２３年１２月１９日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　日本高齢者介護協会
所在地	東京都港区台場１－５－６－１３０７
訪問調査日	平成23年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

医療法人が経営しており、医療面でのサポート、支援を強化しています。また行事等に力を入れており、地域の皆様方と一緒にご利用者様に笑顔になっていただけるように頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

1. 郊外の田園の中に立地し、自然環境に大変恵まれ、快適に過ごせるようになっています。
2. 理念に掲げているように、家庭的な雰囲気の中、利用者が尊厳をもって過ごせるサービスを、日頃から実践しています。利用者がリビングに集まり、思い思いに寛いで過ごしているのが印象的でした。
3.経営母体が医療法人なので、特に健康面、医療面に力を入れています。医師の往診が月2回、看護師が週2回訪問する体制になっており、毎日ラジオ体操、演歌体操、食後の口腔ケア、全員の足浴、往診時の音楽療法等工夫して、ケアを行っています。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果　↓該当するものに〇印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		〇	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	〇	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		〇	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		〇	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		〇	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	〇	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		〇	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		〇	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	〇	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	〇	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	〇	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		〇	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		〇	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念の家庭的な環境の中で地域の皆様と関りながら、その人らしい自立した尊厳ある生活が送れるようお手伝いしますと言う理念のもと職員一人一人が毎日それを頭に入れて働いています。	現在の理念は、地域密着型サービスの意義を踏まえたものとなっており、ミーティングや会議時に職員間で確認・共有し、日頃のサービスの中で実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加しています。地域会議にも参加しています。また地域のお祭りなどにも参加しています。近所の方もよく訪れて一緒に過ごす時間があります。	自治会に加入し、芸能大会、盆踊り、お祭り等地域行事に積極的に参加しています。毎年小学校と交流を図りクリスマス会を合同で行う他、地域のボランティア（介助、紙芝居等）を受け入れたり、近所の方が訪れたりと、着実に地域に根ざしています。	今後は時間をかけ、介護相談の開設、介護説明会の実施、介護器具の無料貸し出し等、地域に貢献する働きかけが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所・地域に顔を出した時には認知症の理解を深めていただけるようにホームの紹介等を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出たご意見にはすぐに対応するように努めています。	会議は、年4回、地域包括支援センター、自治会長、民生委員、家族、医療機関代表、管理者で開催しています。議題は、外部評価報告、ホームの活動報告、大震災状況、インフルエンザ対策等で活発に意見交換し、サービスの向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	柏市グループホーム連絡会に参加しており、市との連携を行っております。	2ヶ月に1回グループホーム連絡会に必ず参加し市担当から情報を得たり意見交換をしています。又、必要な都度、市担当には報告、相談しています。更に、地域包括支援センターとも連携が取られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	学習会などを開いて学びの場をもち職員一人一人が絶対に身体拘束をしないように心がけています。	身体拘束についてマニュアルを作成し、職員は学習会で勉強し、各自が身体拘束をしないように心がけています。玄関にはセンサーが設置され日中は施錠せず、夜間のみ防犯のため施錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員全員が虐待をしないようにしており、異常がないか日頃の利用者の身体チェックも欠かさず行っています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会などを開いて学びの場をもち関係機関との連絡体制を密にとっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族と利用者と対面式で話をし、十分な理解のもと行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しています。また毎月の連絡文にも何かあれば意見、要望をしていただけるような体制をとっています。運営推進会議でも意見交換をしています。	職員は、利用者からは日頃、家族からは訪問時に意見、要望を聞いて、運営に反映しています。運営推進会議でも出席する利用者、家族から要望を聞き、改善に役立てています。実施例としては、職員の名札、メニューのボード版表示、オムツの節減等があります。	家族には、人前で話せない性格の方、話せない事柄、会議に出席し難い方等がいます。個別に連絡ノートを作成し、家族に要望・意見を書いて貰うようにしてはいかがかと思われます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	親睦会や個人面談などを定期的に行っています。	管理者は、毎日の申し送り時、月1回の職員会議、年1回の個人面談等で、職員の意見・要望を聞き運営に反映しています。そのため職員の定着率が高い状況です。改善例としては、資格アップに伴う支給アップ、学習会開催、食材の管理方法等があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回の会議等で話し合われております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会、学習会、講演、研修等に参加できるようにケアの向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	柏市グループホーム連絡会に参加して情報交換をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を築く事が大切な事を職員が理解しご利用者様との面談を大切にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望等をしっかり受け止めサービスに反映できるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何に困っているかを見極めてご利用者様に安心していただけるようなサービスを心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気のもと職員と一緒に支援し合えるような関係作りを実践しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と一緒に支えあえるような関係作りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活歴を大切にして関係機関との連絡体制をとっています。	利用者一人一人のこれまでの生活歴を大切にして、理容・美容室など馴染みの所へ行く時は職員が付き添っています。又、馴染みのクリニック等に職員が付き添う事もあります。地元出身の利用者が多いため、家族、友人、知人が気軽に来訪できる支よう援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介の立場になりながら共に支えあえる支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談できるように説明し関係機関にも伝達しています。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけご本人の希望を尊重しケアに取り入れています。	利用者の日々の生活や会話の中で思いや希望を受け止め、実現に努めています。外に出たい人への外出支援、歯医者への通院支援など本人本位に支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様と話し合いの上で把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録等で把握に努めています。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各関係者と話をし各々の意見を反映させたケアプラン作りに努めています。	介護計画作成には、医療関係者（医師・看護師・訪問リハビリ）・本人・家族・民生委員・担当職員などからの意見を反映しています。又、2ヶ月に1回モニタリングも行われ、現状に即した介護計画を作成し支援しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	随時ケース記録に記入して介護計画に反映するようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他事業所とも連携をとり柔軟な対応をできるように努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣施設を利用できるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様の希望を最優先して各々の医療機関に受診できるように支援しています。	原則、総合病院や馴染みの医師への受診は家族にお願いしていますが、家族の付き添いが不可能な場合は職員が行っています。歯科・眼科・クリニック受診等は、職員が付き添い支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関と常に連携をとれるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃からの協力体制を密にとっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者様とよく話し合い関係機関とも連携して対応できるように努めています。	ホームと利用者で、入居時延命治療に関する要望書が取り交わされています。重度化した場合や終末期のあり方については、家族との話し合い、関係機関との連携、職員との話し合いができている状況です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	学習会、研修会に積極的に参加しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等を定期的に行い地域の方にも参加してもらっています。	年2回消防署立会い訓練と夜間想定の自主訓練を実施しています。その際近所にも声をかけ、担当が他の職員にも連絡する等、実際に即した形で行っています。スプリンクラー、火災報知器、消火器等が設置され、緊急対応表も掲示されています。備蓄も1週間分あります。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	何よりも人格を尊重して言葉がけには配慮しています。	職員は、利用者一人ひとりを人生の先輩と感じ、人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように声かけ時には「○○さん」と姓で呼んだり、利用者との会話時も丁寧に対応しています。又、利用者との接し方の研修なども行われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々のご利用者の想いが引き出せるように何気ない支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の意向をできるだけ尊重してケアに努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の意向を尊重して出張美容などを使っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	皆で力を合わせ家庭的な楽しい場作りをしています。	メニューは、嗜好調査結果を織り込みながら、職員が作成し、バランスのよい食事になる様、栄養士がチェックしています。利用者は、料理の盛りつけ、配膳、後片づけ等職員と一緒にしています。又利用者は、行事食や年2回の外食で食事を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日頃の体調などをよく観察して献立表などを作成して支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご本人に合った口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排泄パターンを把握して適切な支援を行えるように努めています。	職員は一人ひとりの排泄パターンを把握し、自立に向けた支援を行っています。夜間オムツの人は日中リハビリパンツにし、出来るだけトイレでの排泄が出来るように声かけ、誘導しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師等に相談しながら個々に支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯にとらわれずに希望に添えるようにしています。	入浴は原則週2回とし、入浴拒否する利用者には職員が工夫して誘導しており、体調により清拭を行うこともあります。また、利用者は全員毎日足浴しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンを大切にして把握に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬表のファイルがあり気をつけています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	活き活きとした生活提供ができるように職員が工夫、支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なるべく希望に添えるようにしています。普段行けない場所には行事時や誕生日などに行けるように支援しています。	雨天以外は毎日10分から15分の散歩をしています。歩行困難な利用者は車椅子で出かけます。近隣の花見、地域の行事への参加、初詣、誕生日の外食、花火、プラネタリウム、法人の納涼祭等利用者の希望を取り入れて、近隣散策や遠出を皆で楽しんでいます。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の力に合わせて支援、管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々に応じて対応、支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の音には気を配り、季節感が出るような飾り、写真等を配置しています。	居間は日当たりも良く清潔で、昔懐かしいラジオやミシン・時計等が置かれ、壁には行事の写真が貼られていました。又、日向ぼっこができるようにウッドデッキ等もあり、利用者が楽しく団欒出来るようになっています。実際、居間で皆さんが思い思いに寛いでいた光景が印象的でした。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキ、ソファー、畳部屋などの場所を確保しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	相談しながら使い慣れた物、趣味の物を使ったり置いたりしています。	利用者は、なじみの物（家具、仏壇、絵画、書物など）を部屋に持ち込み、居心地よく過ごしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで自立支援の考えを大切にして環境整備に取り組んでいます。		